

足立健康友の会

かばら支部ニュース

第46号
2012年5月17日
☎: 3605-5594
<http://kabara-tomonokai.kenwa.or.jp/>

かばら総会 参加38人

職員と共同で4年連続 拡大目標達成

4月22日(日)かばらデイサービスセンターを会場に第11回かばら支部総会が開かれました。

この総会では足立健康友の会の米倉会長、すこやか福祉会の渡辺常務理事、公害患者会の池田さん、



区議会議員でかばら支部の役員でもある、はたの昭彦さんがそれぞれお祝の言葉を述べられました。

米倉会長は「職員と一緒に会員拡大の月間を取り組み4年連続、目標達成した教訓は足立の他支部でも見習いたい」と激励され、渡辺常務は「友の会の活動が活発な所ほど経営状態も良好」と福祉をめぐると共に話されました。

公害患者会の池田さんは患者への助成制度と6月5・6日開かれる「全国公害患者総行動」への参加を訴えました。はたの区議は区議会の「厚生委員会」に属し、国保・介護料の大幅値上げに反対してきたことを話しながら、特養を千床増やす、老健施設を500床増やす、認可保育園を3園増やすなど

医療(看護)・介護相談会
毎月、第3木曜日10時
どこで 小児科診察室

普段、受診しても先生と相談する時間がなく困っていること・わからないことなど相談ができます。

6月は21日10時

前進面を「区民のみなさんと取り組んで来た成果」だと強調されました。

11年度の活動報告で嶺岸事務局長が今年度は今まで以上に職員が仲間増やしを自分たちの課題と位置付け友の会と旺盛に取り組み4年連続年間目標を達成できました。また、例年通りサークル活動や各催しについては12人の役員と職員が報告しました。

(サークル活動・他の発言内容は次号から順次、支部ニュースでお知らせします)

今回の総会で新役員が5人決まり、新年度の友の会活動のスタートが切られました。

職員紹介のコーナーでは参加した蒲原診療所グループの職員が今年度の抱負も含め地域の友の会役員の活躍に感謝し、一緒に活動を進めて行くことを話して頂きました。

第2部は「脱原発と大震災」に関する討論会です。今までは記念講演でお話をうかがって来ましたが、今回は参加者が自ら発言すると言う趣向でプログラムに組み込みました。

脱原発の話題では中川地域にある公園で高濃度の放射線が見つかり、除染を求める署名に取り組んだ経験が語られ「地域に入るとほとんどの人が署名に応じてくれた」など運動の広がりや披露され、それを友の会役員が先頭になって働きかけている様子が報告されました。

また、首都圏大震災が近づく中で、先の東日本大震災から教訓を学んで、マンションでの震災対策を住民と一緒に具体化した話は「家のマンションでも応用できる話で大変ためになった」など参加者から感想が聞かれました。

また、区議会のはたのさんは足立区での震災対策の現在の取り組みについて詳しく説明してくれました。

今回、初試みの「討論会」は参加者が自ら考えると言う点で大変好評でした。「何かの機会にまた、この様な討論会を開いて欲しい」と言う要望も出されました。

担当 嶺岸 宏

新役員紹介 小川務さん

私は昭和18年9月7日、葛飾区堀切菖蒲園駅の近くで生まれました。しかし昭和19年に満州に渡り、首都新京(現在の長春)に行つて商店をやっていました。それも1年で敗戦、首都だったことが良かったのか汽車に乗ることが出来て、大連に行くことが出来ました。1年間は大連に居て、帰還船で帰つて来れましたが、残留孤児になりました。

このことは母が19年前に民医連の大田病院に入院(その後、死亡)して看病した時、「私が満1歳にしかならなかったのに、何で満州なんか連れて行ったんだ」と聞いたら、母は「堀切の自宅の近所から、『若いお父さん(27歳)なのに戦地に行かないのは非国民だ』と言われ(実は父は心臓病で丙種合格で兵役免除だった)やむなく満州に行ったのだ」と話してくれたので、満州に渡った理由が初めて分かりました。

また、母の通夜の時、叔父が「お前のお母さんは満州から帰った時(山形県尾花沢)頭が丸坊主だった」と言いました。ロシヤ兵から身を守るために男装になったようでした。

今、私が元気で居られるのも、

こうした父母の苦勞があつての事だと思ひます。友の会役員は初めての経験ですが、少しでも皆さんのお役に立つよう頑張りたと思ひつています。

特定健診

5月連休明けから順次、区役所から診療券が郵送されます。毎年1回は健康チェックが大事です。受診をお待ちします。



「かばら友の会」に入会と同時に役員に加えていただいたのは、退職2年目を迎えた一九九三年（平成5年）でした。今では不思議に思われるのですが、蒲原診療所近くの蒲原中に創立以来25年も勤めていたのに、この「友の会」のことは全く知りませんでした。当時は小堀さん、清水さんを中心に岩瀬さん、赤間さんたちが少数ながらがんばっていました。以前は「健康まつり」を北三谷小で

行なつたり、「保険講座」の実施や二泊のバス旅行にバス二台で行つたことなどもおいおいわかつてきました。

このあと先の4人の方たちが順を追うように役員を退いていかれて、役員会はさらにきびしくなりました。

「下町の健康」の郵送分が手配りの二倍に象徴されるように、役員も会員も世代交代の時期にさしかかっていました。

いつでしたか役員会に本部から会長の米倉さんと事務局の小池さんが来てくださったのに、担当職員の市原さんと私の二人だけということもありました。

大体は多い時でも種家さんと数人どまりの役員会でした。それでも従来から続いていた

蒲原診療所50周年・かばら歯科診療所30周年 「友の会」と私

第3回 元かばら支部長 薄井 吟治さん

「友の会」行事は、なんとか実施して行きました。弱体な役員会を職員の方たちにはずいぶんカバーしていただきました。蒲原神社会館での総会や新年会には若い職員の方たちも多数参加してくださり、どうやら格好がつくという風でした。会の担当職員も若い方の場合がほとんどでした。年寄りばかりの友の会で、どなたにも実によくやっていたいただきました。いずれも短期間で交代というのはやむをえないのでしようが、その都度残念でなりません。

診療所の建替の一、二年前あたりから、役員会も会員数も徐々にいい方向に転じてきました。その後間もなく地元を熟知した今井さん、同じく担当職員になった嶺岸さんが組織部に加わり、それ以前後してパソコンを自在に駆使してきた世代の方たちがあいついで役員に加わって、「友の会」も飛躍的に発展し今日に至っています。

退職の年に発足した足立退職教職員会の世話人を引き受けていた私は、区内の三つの隣接した中学校の経験きりありませんでした。もし「友の会」を知らなかったらこの狭い経験のまま終つたに違いありません。「友の会」のおかげでたくさんの方たちと知りあえ、多様な経験も積めてありがたいことでした。役員を下りて3年目にな

る今も、結成11年目を迎えている「コーラスこもれび」にずっと参加し続けています。

蒲原グループ職員・紹介 歯科医師 召田雅巳先生

今回の職員紹介は、蒲原歯科診療所の召田雅巳（めすだまさみ）先生です。

ふるさととは「長野県」。日本大学松戸歯学部を卒業し、「日本大学松戸歯学部付属病院」での卒業研修を終了後、昨年入職しました。昨年は、新人でありながら東都協議会「東日本大震災」復興支援の「第2次チーム」の一員として、大活躍してくれました。

趣味は読書とスポーツ観戦（特にサッカー、野球）、好きな球団は「ジャイアンツ」だそうです。また、ラーメンの食べ歩きも大好きです。良いお店があったら教えてください。

召田先生は、若さとバイタリテイ



ー溢れる先生ですが、物腰は柔らかく患者さん方からの好評を博しています。現在は「入れ歯」がメキメキとうまくなっています。今後は全てをこなせるオールラウンドプレイヤーとして協議会歯科で頑張ってくれるようみなさんも応援して下さい。

最後に、蒲原歯科診療所での診療日は、「水曜日・金曜日・土曜日（隔週）」です。よろしくお願ひします。

総会・サークルの発言 「こもれび10周年記念・歌声喫茶」

昨年、12月に歌声サークル「こもれび」の10周年を記念し「歌声喫茶」を開きました。北千住支部の「ふきのとう」の友情出演もあり、総勢89人の参加で会場のデイサービスは熱気に包まれました。昨年の大震災の後、練習のための会場が借りられず、しばらく休んだ時期もありましたが、10年続いた背景

には、伊藤俊雄先生の包み込む様な指導があったからだと思います。歌声は元気の素にもなっています。気楽に参加できるサークルです。機会があったらみなさんも一緒に歌声を響かせましょう。

報告 種家 昌子